

金沢大学泉学寮の廃寮化に反対する声明

2022 年度第 1 回全国学寮交流会

金沢大学泉学寮

東北大学日就寮委員会

京都大学熊野寮自治会

一橋大学中和寮自治会

金沢大学の学生寮の一つである泉学寮に対し、今年度を以て廃寮とする旨を金沢大学当局が一方的に通知しています。大学は廃寮の理由として、建造物の老朽化や寮設備維持の不採算性、寄宿料の安さに起因する民業(不動産業)の圧迫などを挙げています。しかし、これらを口実にした泉学寮への一方的な廃寮は本来の大学のあり方とはかけ離れたものであり、私たちは反対します。

第二次大戦後の大学の歴史の中で、各大学の学寮は学生の自治によって福利厚生を担保し、学問を志す者が誰でも大学で学べる権利を保障してきました。泉学寮でも、寮生の自主的な運営によって多くの学生に門戸を開いてきました。この必要性は、経済的理由により就学が困難な人々が多く存在する現在の日本社会でも失われることはありません。1950年代以降学費が値上がりし続け、国立大学で年間約 53 万円、私立大では平均で年間約 90 万円(※)もの授業料が必要とされる中で、学費の高さに進学を諦める人、学費が払えずに退学する人が後を絶ちません。

また、学生自治寮には人間形成の場としての教育的意義もあります。学生自らが自治寮を管理・運営する中で、自ら問題を見据える能力、それについて話し合い解決する能力が育まれます。この教育的意義は、アパートや大学当局により管理される寮においては、決して実現されるものではありません。そしてコロナ禍において、学生が孤立し精神的に不安定になり学業を継続できなくなるといったことを防いでくれるものも、自治に基づく共同生活に他なりません。

このような状況において、大学における学生自治寮の存在は社会的に保障されなければなりません。「民業の圧迫」や「経営の不採算性」を理由に学生寮を取り壊すことは、私たち学生にとって「儲かる範囲内で、金銭的な余裕のある人間のみ学問を修める権利を持つ」と宣言されたに等しく、全国のどの大学においても認められるべきではありません。

「建造物の老朽化」に関しても、学寮の改修や建替などの案が検討されない状態で廃寮の理由にすることはあまりにもずさんです。

泉学寮のように、全国の学寮で学生の自主的運営を破壊するような大学当局による一方的な決定の押し付けや、福利厚生への制限が行われています。私たちは大学当局によるこうした全ての一方的な決定に反対するとともに、改めて泉学寮の廃寮の撤回を求めます。

2022年9月4日

※文科省「私立大学等の令和3年度入学者に係る学生納付金等調査結果について」
私立大学等の令和3年度入学者に係る学生納付金等調査結果について

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shinkou/07021403/1412031_00004.htm